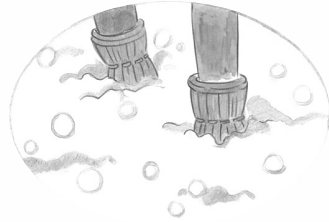




いくたびも ^{ゆき}雪の^{ふか}深さを たずねけり



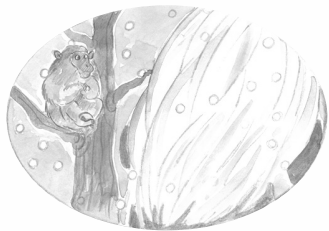
^{まさ}正岡^{おか}子規^{しき}

^{えり}襟巻^{まき}に ^{くび}首^ひ引き入れて ^{ふゆ}冬の^{つき}月



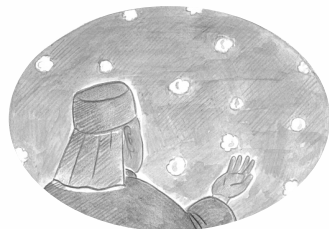
^{すぎ}杉山^{やま}さん^{ふう}風

^{はつ}初しぐれ ^{さる}猿も^こ小^{みの}蓑を ほしげなり



^{まつ}松尾^お芭蕉^{ばしやう}

うまそうな ^{ゆき}雪がふうわり ふわりかな



^こ小林^{ばやし}一茶^{いつさ}



おんせい
音声はこちら

慣用句

1年目 ステップ10

かお き
顔が利く

無理な事でも通るくらい名が知られている。



め ひ で
目から火が出る

頭や顔を強く打った時の感じを表す言葉。



むね な お
胸を撫で下ろす

危険や心配が無く安心すること。



ね は
根も葉もない

事実であることを裏付ける理由も根拠もないこと。



き
気がおけない

互いに気持ちに通じていて遠慮せずに打ち解けられる。





《熟語のうた》

二文字以上の漢字がつながって できたもの

それが熟語さ

熟語の読み方 四通り

普通の読み方 上下音読み 上下訓読み

重箱読みは 上は音読み 下は訓読み

湯桶読みは 上は訓読み 下は音読み

熟字訓は 全体で決まった読み方だ

小さい豆は あずき

早い苗は さなえ

竹の刀は しない



他にも 特別な読み方があるんだ

例えば「本」という字は 変化する

一本 二本 三本

熟語の読み方 おもしろい



読書
青空

普通は上下音読み・上下訓読みで
読みます。



おんせい
音声はこちら

ことわざ

1年目 ステップ10

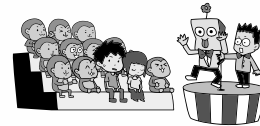
おや こころ こ し
親の心子知らず

子を^{おも}う親の^{おや}気持ち^{きもち}を、^{かんじん}肝心な^こ子どもは^き気^きに^{かけ}かけず^{かつて}勝手なことをするものだ。



か き やま
枯れ木も山のにぎわい

つまらないものでも^{かず}数が^{くわ}加^{けい}われば^{きづ}景気^づ付けになる
ということ。



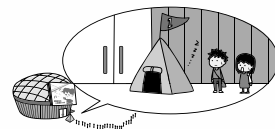
あめ ふ じ かた
雨降って地固まる

問題^{もんだい}が^お起^おこったこと^{だい}によって、かえってうま^いく^くよう^くになる^いということ。



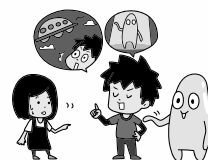
さき ひと せい
先^{さき}ずれば^{ひと}人^{せい}を^{せい}制^{せい}す

先^{せん}手^てを^う打^うつことが^{かんじん}肝^{かん}心^{じん}だ^{かん}ということ。



うそ で まこと
嘘^{うそ}から^で出^でた^{まこと}真^{まこと}

物事^{ものごと}は^{ぐうぜん}偶^{ぐう}然^{ぜん}に^{さゆう}左^さ右^{ゆう}さ^おれる^おことが^お多^おく、^{いがい}意^い外^{がい}な^いこと^い
が^お起^おこる^おもの^おだ^おということ。



か かぶと お し
勝^かって^{かぶと}兜^おの^し緒^しを^し締^しめ^しよ

勝^かち^かに^かお^かご^からず、^き気^きを^ひ引^ひき^し締^しめ^しよ^しということ。





わ
今^{いま}は^ぬれ^ば
み^たを^{おな}つ^くし^ても
逢^あは^わむ^とぞ
(元^{もと}良^{よし}親^{しん}王^{のう})

難^{なに}波^わ
短^{みじ}き^か 瀉^{がた}
逢^あは^わで^この^よ世^を
過^すぐ^して^よと^や
(伊^い勢^せ)

